

2019年度第2回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	2019 年 10 月 21 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、清水、坂 (敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	岩岡 裕子
研究名	浣腸回数減少へのレクを通じたアプローチ
研究内容 要旨	認知症専門棟において浣腸による排便回数が多い状況であった。認知症のある利用者によって浣腸は意図的でない急な便意をもよおし排便を我慢するように声掛けされながらトイレまで移動し排便することとなり、不安を生じやすい処置であると考えた。2017年3月よりレクリエーションを開始するにあたり、自然排便を促すために排便体操を取り入れることにした。レクを実施した期間前後での浣腸回数が減少したか検証する。この研究を行うことにより排便体操を取り入れたレクが浣腸回数を減らすことに効果があるか明らかになると考える。
審議結果	承認 2019-02
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心的苦痛を伴わないアンケート調査に関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	米重 友紀子
研究名	アルツハイマー型認知症における表情の変化
研究内容 要旨	人がコミュニケーションを円滑に行うためには、相手の表情を正しく理解し、それに応じた反応を適切に行うことが必要となる。当院では神経内科を受診したアルツハイマー型認知症者に対し認知機能検査と動画表情認知課題を行なっている。動画表情認知課題とは、呈示した表情から怒り、嫌悪、喜び、悲しみ、恐怖、驚きの基本6表情を正しく理解できるかどうかを調べる課題である。先行研究では、認知症になると表情を理解する能力が低下する報告はあるが、文献は少なく認知機能検査と動画表情認知課題の検査結果を比較したものはない。そこで、今回ADの認知機能検査結果と動画表情認知課題の検査結果を比較しそれらの関連性を検討する。
審議結果	承認 2019-04
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないもの」であり、「既存試料を用いて、集計。統計処理等を行うもの」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	内田 雅之
研究名	早期の長下肢装具作成に向けた取り組みの成果について
研究内容 要旨	当院回復期リハビリテーション病棟にて2018年6月から開始した、早期の長下肢装具作成に向けた取り組みの成果を明らかにすること、これにより、重症脳卒中患者に対する長下肢装具の早期作成を実現するための一助となり、さらなるリハビリテーションアウトカムに繋がると考えられる。
審議結果	承認 2019-05
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないもの」であり、「既存試料を用いて、集計。統計処理等を行うもの」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	山原 純
研究名	当透析室の看護カンファレンス定着化に向けて
研究内容 要旨	看護カンファレンスは、患者へより良いケアを提供するための看護方針の統一を図る場であり、チームメンバーの成長を促し職場の活性化にも役立つものである。現在、当透析室の看護カンファレンスは1ヵ月に数回程度の不定期の開催となっている。内容は主に今注意して見ていかなければならない患者を挙げ、現在の状態や行なっている看護ケア、看護計画の妥当性の評価・修正を話し合うが、時間が足りず途中で終わってしまうことが度々ある。患者の状態に変化があれば、その都度カンファレンスを開催することが望ましいが、実状は出来ていない状態にある。そこで、透析室看護師を対象に、開催困難な原因や問題点は何なのか、実践可能な継続できるカンファレンスはどのような方法なのかを意識調査する。その結果を基に有用な看護カンファレンス方法を検討・導入し定着させたいと考え、今回看護研究に取り組む。
審議結果	承認 2019-06
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心的苦痛を伴わないアンケート調査に関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	辻 弥生
研究名	手指衛生の意識向上への取り組み
研究内容 要旨	現在、当病棟に入院後感染症の新規検出がみられる。それはケアに当たっている私たちが媒体となっていると考えた。医療現場において、手指衛生は最も基本的で効果的な感染対策のひとつであるが、当病棟では、手指衛生の方法やタイミングが個々で差が見られる。WHOが推奨する手指衛生の5つのタイミングを元に病棟での意識調査を行い、現状の把握と問題点を抽出し、学習会を行う。学習会前後で意識調査を行い結果を比較することで、個々が理解を深め効果的な手指衛生を行うことができると考える。
審議結果	承認 2019-07
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心的苦痛を伴わないアンケート調査に関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	岩本 正隆
研究名	しているADLを、できるADLに近づけるための病棟での取り組み
研究内容 要旨	回復期リハビリテーション病棟では、他職種が連携し退院後の生活を想定しながら、身体機能や日常生活能力の向上に取り組んでいる。患者の力を最大限に引き出しているリハビリでの訓練内容（できるADL）は、病棟での日常生活動作（しているADL）と比べると、FIMを用いた評価において差が生じている。なぜ、その差が生じるのか、回復期病棟に勤務する看護師に対して意識調査を行い、原因を探り「しているADL」を「できるADL」に近づけるために、病棟ではどのような取り組みが有効で実践可能であるかを検証したい。
審議結果	承認 2019-08
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心的苦痛を伴わないアンケート調査に関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	野田 阿由美
研究名	小山田記念温泉病院における要介護被保険者、虚弱高齢者の心身機能と生活機
研究内容 要旨	当院通所リハビリテーション、コミュニティプールを利用している要介護被保険者及び虚弱高齢者を対象としたコホート研究を行う。研究に同意いただいた対象者の基本情報を収集し、記述式アンケートや身体機能評価を行う。調査、評価は、測定調査開始時及びその後1年毎に合計3回実施する。測定開始時の利用者の特性を横断的に分析するとともに、測定した項目を経時的に比較検討する。
審議結果	承認 2019-09
参考	研究計画の軽微な変更であり、書類審議を行い、承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	前川 了一
研究名	当院における I-HDF の有用性
研究内容 要旨	I-HDF は2012年に診療報酬に加えられた治療法である。先行研究において I-HDF は、血管内脱水を軽減し血圧低下や筋痙攣、透析後倦怠感改善に効果があると報告がみられる。当透析室でも透析時血圧低下や筋痙攣のある患者に対して I-HDF を行っている。しかし I-HDF を導入してみると透析時血圧低下や筋痙攣がかいぜんする患者、思ったほど改善しない患者がいることが分かった。患者の情報（評価項目）を後ろ向きに解析、研究することで、I-HDF 適応患者を明確にする。
審議結果	承認 2019-10
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「既存試料を用いて、集計、統計処理等を行うもの」であると考えられたので、書類審議を行い、承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	瀬古 征志
研究名	「高齢ドライバーにおけるアクセルとブレーキの踏み間違い事故危険度スクリーニングテスト」の検討 -理学療法士の視点から-
研究内容 要旨	高齢ドライバーによる事故は増加の一途を辿っており、超高齢社会に入った日本の社会問題の一つとなっています。一方、車の運転をやめて自由に移動する手段を失った高齢者は、運転を続けている人と比べ要介護度になるリスクが高まることも報告されています。 本研究の目的は、運転動作に関係する身体機能を主としたスクリーニングテストの試案が事故危険度の判定に有用であるかを検証し、高齢ドライバーの安全運転支援の一手段となるかを検討することです。
審議結果	承認 2019-11
意見	特になし。